

検討の観点と内容の特色

	検討の観点	内容の特色
1. 内容の取扱い	●学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、適切な配慮がなされているか。	○3学年を通して、聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことの5つの領域別に設定された目標を達成できるように、内容が選択・配列されている。学習者が英語で自らの思考・判断を働かせて表現する活動が豊富に配置されており、外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を育成することができる。 ○「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力を一体に育むさまざまな活動が盛り込まれており、学習者の「主体的・対話的で深い学び」を実現して、一人一人の「生きる力」の育成に寄与できるよう工夫されている。
	●教科の目標に照らして、教育基本法との関連が図られているか。	○各学年において、教育基本法第2条に基づいて教材を選定・開発している。第1号 真理を求める態度、豊かな情操と道徳心への配慮〔例、2年 Lesson 1（介助犬）など〕。第2号 個人の価値尊重と創造性、自主・自律の精神と勤労を重んじる態度の育成〔例、2年 Lesson 4（職場体験）など〕。第3号 正義と責任、自他の敬愛と協力の尊重、主体的な社会参画。〔例、3年 Lesson 6, 7（働き方、食品ロス問題）など〕。第4号 生命の尊重と環境の保全への寄与。〔例、1年 Lesson 9（温暖化、ゴミ問題）など〕。第5号 伝統や文化の尊重と国際理解への寄与〔例、2年 Review Lesson（俳句・松山）、2年 Lesson 8（英語落語）、3年 Review Lesson（和食）など〕。
	●自主的・自発的な学習への支援について考慮されているか。	○各 Lesson などの目標が明確に示されており、また3学年の段階的な学習到達目標が巻末の「Can-Do 自己チェックリスト」に明示されていることで、学習者が見通しをもって学習を進め、自己評価できるように工夫されている。 ○新出語句に付したチェックボックス、本文に付した音読練習回数の記録欄など、自己学習を促す工夫がなされている。 ○効果的な学習方法の例「How to Study」や辞書の使い方を扱う「辞書についていっしょに学ぼう!」のコーナーで、自発的な学習への手立てを示している。
2. 内容の程度	●小学校外国語科との接続に関して、適切な配慮がなされているか。	○小学校外国語科での学習事項を踏まえ、中学の学習への基礎をつくる活動が、1年の巻頭に Springboard 1~4として設けられており、小学校から中学校への橋渡しがスムーズにできるように工夫されている。続く1年生の Lesson 1~3は、小学校で行われてきた音声中心の活動（自己紹介、好きな物などについての会話、人物紹介など）を見開き単位の紙面で行いながら、言語についての知識・理解や、読むこと・書くことの技能に円滑につなげる単元構成とされている。
	●生徒の発達段階に適合した内容が選択されているか。	○各学年を通して、言語材料・言語活動・題材のそれぞれについて、学年を追って発達段階に適合した内容が選択され、配列されている。 ○題材は、生徒の発達の段階に配慮して、学校生活や家庭生活の身近な内容から始まり、学年が進むにつれて徐々に視点が広がっていくように構成されている。
	●基本文、文法解説、語彙の取り上げ方は適切か。	○文法・文構造については、基本的なものが丁寧に取り上げられており、言語活動との関連を踏まえて段階的に配置されている。基本文について簡潔な説明を施したうえで、使い慣れていくための Tool Kit が設けられている。Grammar では、単元ごとの文法・文構造が既習事項と関連をもたせてわかりやすくまとめられている。 ○語彙は、さまざまなデータに基づいて中学生が学習するにふさわしい語が選ばれており、その中でも重要なものについては「特に覚えてほしい語」として側注などに太字で示されている。
	●言語活動は、適切に選択されているか。	○文法・文構造がコミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、これらと効果的に関連付けて指導できるような言語活動が Think & Try, Task および Project として配置されている。
	●題材内容は、生徒の興味・関心に即したものが選ばれているか。	○中学生が興味・関心をもてるような話題・題材〔例、1年 Lesson 5（外国の中学生の生活）、1年 Lesson 8、2年 Lesson 1（動物）、2年 Lesson 5（ハロウィーンの起源）、3年 Lesson 3（ニュースやコマーシャル動画）など〕が豊富に組み込まれている。これらを通して学習意欲が高まると同時に、学習を通じて生徒の視野が広がるよう配慮されている。
	●他教科や総合的な学習の時間との関連について配慮されているか。思考力・判断力・表現力の育成について配慮されているか。	○各 Lesson の話題・題材には、異文化および我が国の文化理解、地理・歴史、生命・環境、情報、福祉・健康、平和などの話題が豊富に取り上げられており、総合的な学習につながる内容となっている。 ○道徳で重視される、自分の考えを書いたり討論したりするなどして表現する機会〔例、各学年の Project、3年 Lesson 6, 7（ディスカッション、ディベート）など〕を設けている。総合的な学習の時間で重視されている、他者と協同して問題を解決しようとする学習活動〔例、1年 Project 2、3年 Project 1, 3など〕が設けられている。これらを通して、思考力・判断力・表現力の育成が図られるよう配慮されている。
3. 組織・配列・正確性	●内容の組織・配列は、指導上の効果が上がるように適切に配慮されているか。	○各 Lesson は、原則として Part 1~2（短めの本文と「聞く」「話す／書く」活動を通して、特に重要な基本文の理解と定着を図る）と、Part 3（長めの本文を「読む」活動と「聞く」「話す／書く」活動を通して、より深い学習と発信力の伸長を図る）、Lesson 末の Task（本文の内容理解確認の活動と、技能統合的な活動）で構成されている。帯活動などで活用できる巻末 Activities Plus と併せて、5領域の力をバランスよく伸ばし、基礎から実践的な活動まで行うことができるように構成されている。
	●言語材料の組織・配列は、指導上の効果が上がるように適切に配慮されているか。	○文法・文構造は、関連あるものを同じ Lesson や連続した Lesson で扱うなど、バランスよく配列されている。Grammar コーナーでは、それらを既習事項と関連させて、また語順や修飾関係などにおける日本語との違いに留意して整理されている。 ○音声事項については、本文脚注に整理され、語と語の連結による音変化、文中の強勢・イントネーションなどについて適切に取り上げられている。
	●練習問題および補充資料は、適切に位置づけられているか。	○文法事項の定着を図る基本的な練習（Tool Kit, Listen）から、実際のコミュニケーションに近いレベルの活動（Task や Project）まで、段階を追って必要な学習活動や言語活動が用意されている。さらに巻末の Activities Plus で、既習の表現や文をさらに自由に使えるようにするための活動や表現例が扱われており、学習者の実態や学習段階に応じて言語材料を定着・活用させていくための材料が豊富に用意されている。
4. 分量	●3年間で扱う新出語彙数は適切か。	○新出語彙数は3年間合計1,663語（1年605語、2年575語、3年483語）であり、学習指導要領に照らして適切である。特に覚えてほしい語を太字で表記したり、その段階では受容語彙として扱えばよいものなどに意味を付したりしてあり、柔軟な扱いへの配慮がなされている。
	●各内容の分量の配分は適切か。	○各学年とも7~9つの Lesson と、新出の文法・文構造が現れない2~3つの Reading から成る。活動も精選されており、分量の配分は適切である。
	●指導時数や生徒の心身の発達段階から見て、全体の分量は適切か。	○指導時数の目安は、思考・判断・表現の力を育成する言語活動の時間を考慮したうえで、1年117時間、2年107時間、3年106時間となっており、年間指導時数内で余裕をもって指導できる。また、巻末 Activities Plus を教師の裁量で拡充して扱うことが可能な構成となっており、柔軟に対応できる。
5. コミュニケーション	●外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を養えるように工夫されているか。	○本文の学習を中心とする Lesson によって、知識・技能と思考・判断・表現力の基礎を育成し、Project においてより多様な場面のなかで5領域を総合的に活用する学習が行えるように構成されている。生徒を動機づけ、主体的な学習を促す構成と相まって、資質・能力が3つの柱（「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」）に沿って有機的に養われるように配慮されている。 ○5領域のコミュニケーションのポイントを整理した Tips や、日常会話表現を多く扱った Useful Expressions、さまざまな話題の質問・応答例を掲げて練習できるようにした Activities Plus など、生徒が主体的に英語を使えるようになるための工夫が施されている。
	●「言語の使用場面」「言語の働き」について適切に配慮されているか。	○各 Lesson などにおいて、Goal や指示文の中で「言語の働き」と「言語の使用場面」が明確に示されており、また多様な働きと場面が扱われている。活動を通して、実際のコミュニケーションにおける言語材料の意味や適切な使用場面が体験的に理解でき、生徒の思考・判断・表現に資するよう配慮されている。
	●5領域のバランスや統合について、配慮されているか。	○3学年を通して、Lesson のすべての見開きに「聞く」活動が配置され、充実している。「話す〔やり取り、発表〕」活動については、Think & Try! や Task, Project, Activities Plus において、他の領域と関連させながら十分な練習と実践の場面が設けられている。 ○「読む」活動については、Lesson の本文の他、多数の Reading, Further Reading が配されている。「書く」活動は、Think & Try! や Task, Project において他の領域と関連させながら、多数扱われている。 ○5領域にわたる Tips のコーナーで、各領域のコミュニケーションを効果的に行うコツが練習場面とともに示されており、知識・技能の段階的な習得に資するよう配慮されている。 ○各学年の Project においては、複数の技能を統合的・総合的に活用して取り組む活動が設けられている。
	●ALT との Team Teaching や、ペア・ワーク、グループ・ワークを取り入れた授業への対応が配慮されているか。	○各 Lesson の本文や、適宜設けられた Useful Expressions や Tips などの中に、ALT などとの Team Teaching に利用しやすい要素が各所に配置されている。 ○Activities Plus では、既習の言語材料を用いたさまざまな話題における応答例が示されており、ペア・ワークによる口頭練習に継続的に取り組めるよう工夫されている。 ○Project においては、グループ・ワークによって効果的に取り組むことができる活動が多く取り入れられている。
6. 印刷・造本	●挿絵・図表・写真などは適切か。	○挿絵・図表・写真は、生徒の学習意欲を高めるもの、文章の理解を助ける資料性の高いものや、作品世界を活かし、生徒の想像力を高めるイメージ豊かなものを掲載している。また、学習活動の手順や留意点などをわかりやすく示したものを、学習上必要なものを適所に取り上げてある。
	●特別支援教育についての配慮がなされているか。	○紙面上のさまざまなアイコン、イラスト、図表などの判読・理解において、色覚特性による影響が生じないように配慮した、すべての学習者にとって見やすくわかりやすい配色が施されており、CUDO（NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構）による認証マークを取得している。 ○改行の施し方や余白の配り方も適切であり、わかりやすいアイコンの使用によって授業を円滑に進められるよう工夫がなされている。
	●紙面の構成は、有効に用いられるように工夫されているか。	○文字の大きさ、行間、書体の選択、アイ・スパンは、英文の目的に応じて適切に配慮されたものとなっている。とくに1年生の Lesson 1~3では、小学校外国語科との接続に配慮した手書き文字に近い字形の書体を用い、その後、段階的に他の書体を導入する形になっている。
	●用紙など、環境への配慮がなされているか。	○用紙には軽量の再生紙を、印刷には植物油インキが使用されており、地球環境に配慮されている。また、適度な白色度の用紙を使用しているため、目が疲れにくい。 ○印刷は美しく鮮明である。製本は堅牢であり、長期間の使用に耐えられるものとなっている。